

日本酒で乾杯推進会議レポート

第8回「100人委員会」開く



クライナー・ヨーゼフ氏が「日本の酒と伝統文化」テーマに講演 乾杯運動の進め方などで意見交換。日本酒囲み懇親の宴も

平成 25 年度の「100 人委員会」(石毛直道代表)が、5 月 21 日の午後、港区元赤坂の明治記念館で開催されました。第 8 回目となる今回は、民族学者のクライナー・ヨーゼフ氏(100 人委員)が「日本の酒と伝統文化－奄美・加計呂麻島の神祭りと神酒との出会い」と題して講演したほか、「日本酒で乾杯推進会議」の今後の進め方などをめぐり委員同士で意見交換。会議終了後には懇親の宴「日本酒文化を味わう会」も開かれ、各地の日本酒を囲んで、歓談のひとときを過ごしました。



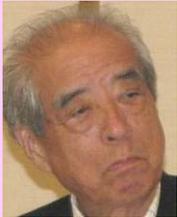
クライナー・ヨーゼフ氏



- ▲ 「日本酒文化を味わう会」のひとこま
- ◀ 石毛代表の発声で「日本酒で乾杯！」

出席された方々

(50音順)

				
石毛 直道氏 国立民族学博物館 名誉館長	小渕 優子氏 日本酒を愛する女性議員 の会 幹事長	神崎 宣武氏 民俗学者	北本 勝ひこ氏 東京大学大学院教授	木村 修一氏 東北大学名誉教授
				
クライナー・ヨーゼフ氏 民族学者	兒玉 徹氏 東京大学名誉教授 財団法人醸造学会会長	阪田 美枝氏 『日本の酒造り唄』著者 2千年紀和紙委員会 事務局長	佐藤 陽子氏 音楽家	篠原 成行氏 日本酒造組合中央会会長
				
島田 律子氏 日本酒スタイリスト	滝澤 行雄氏 秋田大学名誉教授	中村 靖彦氏 東京農業大学客員教授	野田 聖子氏 日本酒を愛する女性議員 の会 会長	浜 美枝氏 女優
				
ピーター・バラカン氏 ブロードキャスター	土方 清氏 日本小売業協会会長	三田村 有純氏 漆芸家 東京藝術大学教授	山本 祥一朗氏 評論家	

※ 小渕優子氏、神崎宣武氏、北本勝ひこ氏、野田聖子氏、ピーター・バラカン氏は、「日本酒文化を味わう会」から出席。

★ 乾杯運動の強力応援団。多彩な活動を展開する「100人委員会」

日本人には日本が足りない—そんな危機感から「日本文化と日本酒のルネサンス」を旗印に、清酒業界一丸のカルチャームーブメントとしてスタートした「日本酒で乾杯運動」。平成16年6月以降、「日本酒で乾杯推進会議運営委員会」（西村隆治委員長）を中心に、「日本酒で乾杯」の普及、定着へ向けた活動を全国各地で繰り広げており、最近では、京都市や佐賀県鹿島市で乾杯推進の条例が制定されるなど、着々と運動の成果を積み重ねています。



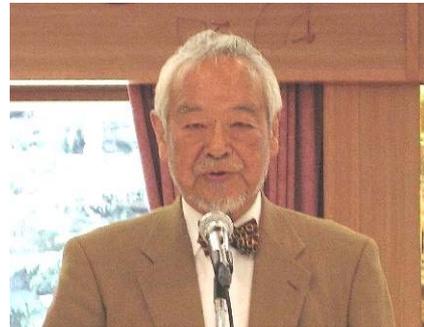
100人委員会が開かれた明治記念館・末広の間(1階)

平成16年に結成された100人委員会は、文化、芸術、スポーツなど各界有志による乾杯運動の応援団で、年1回の意見交換と推進会議ホームページへのコラム寄稿、各メンバーそれぞれの分野における支援などを通じて、力強いバックアップ活動を展開しています。現在のメンバー数は計92名（平成25年5月現在）で、今年度に入り、太田和彦（作家・居酒屋評論家）、小畑宏介（〈公社〉日本青年会議所会頭）、土方清（日本小売業協会会長）の3氏が新たに委員に加わりました。

今回の会合には、石毛直道代表らメンバー18名のほか、中央会から篠原会長、岡本副会長、西村運営委員長らが出席。西村委員長の活動報告、クライナー・ヨーゼフ氏の講演、自由な意見交換などのプログラムを通じて、メンバー同士の交流促進が図られました。

● 日本の青年は何故ひ弱なのか（石毛代表の挨拶）

開会の挨拶を行った石毛代表は、「昔は家庭団欒の中で、親から酒の飲み方を教わった。日本の青年は海外の人から見ると、大人になり切らずひ弱だといわれることが多いが、酒の飲み方を教えられずに成人してしまうこともその一因ではないか」との持論を示した上で、「今日の会で講師をお願いしたクライナー・ヨーゼフ氏は私の40年来の知己でありヨーロッパの日本研究の第一人者。各地を現地調査して日本を深く理解している同氏から、今日は貴重なお話が聞けると思う」と述べました。



開会挨拶を述べる石毛代表

● 会議発足後10年。会員5万人へ向け再出発

「日本酒で乾杯推進会議」の活動報告を行った西村運営委員長は、まず会議の会員数が3万3400人を超えたことに触れ、「推進会議が発足してほぼ10年。よくここまで来たなという思いもあるが、引き続き5万人を目標に会員の拡大に向け再出発したい」と説明。また、京都市や鹿島市で乾杯推進条例が制定されたことについて「画期的で驚くべきことだが、他にも条例化を予定している自治体があると聞いている」と報告しました。



西村運営委員長

今年度の主な活動計画としては、日本酒の海外展開をめざす國酒プロジェクトに関連して、『日本酒と日本文化と乾杯』と題する冊子を英語版と日本語版で発刊するため作業を進めていること、「日本酒の日」に合わせて開催する総会・フォーラムでは「第10回を記念して、日本酒で乾杯の新作落語を紹介する予定」であること、などを報告しました（総会・フォーラム・懇親パーティおよび地方（富山）大会の開催予定は右のとおり）。

● 奥深い奄美の酒文化－ヨーゼフ氏の講演から

クライナー・ヨーゼフ氏の講演「日本の酒と伝統文化－奄美・加計呂麻島の神祭りと神酒との出会い」は、鹿児島県奄美群島の加計呂麻島で民族学のフィールド調査を行ったときの島人との交流や神祭りの話、そして日本本土との繋がりも認められる奄美の酒文化の奥深さなどについて論じたもの。

講演の中でヨーゼフ氏は「奄美・沖縄には中国雲南地方以東に広がる口噛み酒の文化が残っており、加計呂麻島の神祭りでは、米で造った口噛みのお神酒を神様に供え、カミンチュー（神人）と呼ばれる女性たちが、豊作を祈る歌を捧げた後、サツマイモや魚を食べながら、お神酒を頂く。この直らいが最も重要なところで、神様から頂いた米で醸した飲み物を、感謝の気持ちで神様に供え、神と一緒に頂くという考えには内地との共通性が認められる」「奄美・沖縄は、地方色豊かな日本文化のひとつだが、何百年も続いた独立王国として、内地とは違った価値観も育んできた。内地の人もこの歴史的事実を認め、お互いが自由にモノを言い合い、守り合える関係であってほしいと思う」などと述べました。

● 醸造酒と放射能に関する注目の報告も

続いて、佐浦運営委員を司会に、今後の運動の進め方や日本酒の需要開発などをめぐって意見交換が行われました。

委員からは「日本酒の博物館のような施設を作れないか。地味な活動ですぐに需要に結びつくものではないが、そういう施設も必要だと思う」（山本祥一朗氏）「酒蔵は地域文化の発信地。会員を増やすことも必要だが、酒蔵を中心にしたもう少し小さなコアな活動もやっていくべきではないか」（浜美枝氏）などの提案が出されたほか、

総会・フォーラム・懇親パーティの予定

- ・日時 9月30日（月）
16時～20時30分
- ・会場 明治記念館

地方大会（富山大会）の予定

- ・日時 10月5日（土）
14時00分～20時
- ・会場 富山県高岡文化ホール他



ヨーゼフ・クライナー氏プロフィール

1940年ウィーン生まれ。ウィーン大学、東京大学で民族学・日本研究を専攻。ウィーン大学哲学博士（学位論文「奄美の社会と宗教」）。ウィーン大学、ボン大学教授、ドイツ連邦政府日本研究所初代所長、法政大学特任教授を経て、現在はボン大学名誉教授。

主な著書に『世界の沖縄学－沖縄研究50年の歩み』（芙蓉書房）、『近代日本意識の成立－民俗学・民族学の貢献』（東京堂出版）、『日本民族の源流を探る－柳田國男「後狩詞記」再考』（三弥井書店）などがある。



佐浦運営委員（写真右）
山本氏（下左）、浜氏（下右）



今回が初参加となる土方清氏は「もっと多くの人に日本酒を嗜んでもらうための商品開発などを蔵元と一緒に進めながら、日本酒の需要拡大に協力していきたい」と発言。また、滝澤行雄氏は秋田大学医学部で行った飲酒と放射能に関する実験結果について「ネズミに15日で死亡する量のセシウムを照射した後、純米酒を与え続けると15日経っても元気に生存する。醸造酒、特に純米酒に放射能被害に対する有意の変化が認められた。今後、研究論文としてまとめられれば、世界を大いに益することになる」と、注目すべき報告を行いました。



土方氏



滝澤氏



● 貴重な意見を運動の参考に(篠原会長)

会議の最後に、中央会を代表して閉会の言葉を述べた篠原会長は、「今日のご出席の委員各位からたいへん貴重なご意見をいただきました。これを今後の日本酒で乾杯運動を進める中で参考にしていきたいと思う。昨年6月に就任して、100人委員会への参加は今回が初めてとなるが、今後ともよろしくご指導を賜りたい」と述べて、委員への謝意を示しました。



篠原会長

● 野田・小淵議員とバラカン氏、日本酒応援宣言

100人委員会終了後に開かれた「日本酒文化を味わう会」では、はじめに石毛代表の発声で「日本酒で乾杯！」の杯を掲げた後(表紙写真)、各地の日本酒に、燗酒や日本酒カクテルなど、様々な飲み方を楽しみながら、和やかな歓談のひと時。

会場には国税庁の幹部の方もご出席いただいたほか、多忙な日程の合間を縫って野田聖子、小淵優子両衆議院議員も出席。それぞれ、

「新結成された國酒を愛する議員の会の会長として、日本酒の海外セールスのお手伝いをしたい。外国人へのプロモーションとして秋から各国際空港で日本酒キャンペーンを展開する」(野田議員)

「伊丹空港には、一杯100円でおいしい日本酒を提供する自販機が設置されている。素晴らしいアイデアだと思う。日本酒を世界で飲んでもえるよう真剣に考えていきたい」(小淵議員)

と、頼もしい言葉で会場を沸かせました。



中締め発声はピーター・バラカン氏。
「アニメやゲームだけがクールジャパンじゃない。伝統の日本酒こそクールジャパンそのもの。私も応援します」



バラカン氏



野田議員

小淵議員



★ 乾杯！の風景 — 「日本酒文化を味わう会」の会場から

